



静岡大学教育学部の前身となる「静岡師範学校」は明治8年(1875年)1月に創設されました。



「静岡師範学校」の正門です。



現在、教育学部は緑豊かな静岡キャンパス内にあります。



今年も166名が「学校の先生」になりました。

2025年3月の卒業生282名の進路：教員166名、進学26名、公務員24名、企業等54名、自営業4名、その他8名



学校のリスク管理、
情報モラル・セキュリティの
科目も設置されました



子どもたちに
英語を教える地域貢献活動
「しきじ土曜倶楽部」



教育学部長 鎌塚 優子

未来の先生を育てる環境づくりにあなたの力を！ 教育学部創基150周年記念募金にご協力ください。

本学部は、このたび創基150周年という大きな節目を迎えることができました。これまで本学部を共に育んでくださったすべての皆様に、心より感謝申し上げます。さて私たちは今、150年の歩みを未来へとつなぐため、教育・研究環境のさらなる充実を目指しています。学生が安心して学び、新しい発想を育み、社会で活躍できるように、先端的な設備の充実につとめ、また子どもたちや市民とも共に活動できるキャンパスの創造を進めてまいります。本学部は、これからも未来を担う若者たちの成長を力強く支えていきます。そのために、「静岡大学教育学部創基150周年記念募金」への皆様の温かいご協力を賜いましたら幸いです。

ご寄附は
こちらから



静岡大学未来創成基金ウェブサイト <https://kikin.adb.shizuoka.ac.jp>

静岡大学広報・基金課基金係 電話：054-238-5183 E-mail：kikin@adb.shizuoka.ac.jp
郵便振替やインターネットからお申込みいただけます。ご寄附をいただいた皆様のご芳名をウェブサイトに掲載しています。



※絵柄は選べません



左記二次元コードから
アクセスいただき、
WEBにてご回答ください。
応募締切：2025年12月31日(水)

編集後記

今号では、6年ぶりにコンテスト出場を果たしたヒコーキ部の機体を表紙にしました。鮮やかな機体に部員たちの熱い思いが込められています。歴史と伝統のあるキャンパスを越えて、大空に、海外に、さまざまなフィールドに羽ばたいていく学生たちを今後も一緒に応援していただけますと幸いです。



SUCCESS

静岡大学広報誌 サクセス

Shizuoka University
Current affairs &
Connective paper for
Every graduate
Student &
Staff



Autumn 2025

特集

情報学部 国立大学初の設置から30周年

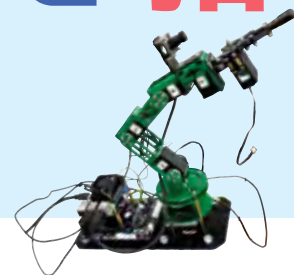
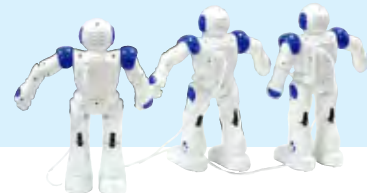
デジタル人材よ、未来を拓け！

／自主的な活動で異分野チームを結成 プロジェクト研究所



情報学部 国立大学初の設置から30周年

デジタル人材よ、未来を拓け！



創設当初から掲げる「文工融合」の理念

情報学部長 小西 達裕 教授

専門分野は教育工学。人工知能やプログラム解析などの技術に応用した新しい学習・教育支援システムを開発してきた。



1995年10月に、日本の国立大学で初めて「情報学」の学部として設置されました。当時は、理工系分野の一つと捉えられていましたが、設置時から「文工融合」を学部理念に掲げ、コンピュータシステムをとりまく人間や社会の活動をも視野に入れて、人文科学・社会学からコンピュータサイエンスまで幅広い分野の専門家が集い、学部を作り上げ

てきました。現在、AIやIoT等の最先端技術を学ぶ「情報科学科」、データの利活用やサービス構築を学ぶ「行動情報学科」、社会や人の観点から暮らしやすい情報社会デザインを学ぶ「情報社会学科」の3学科を設置しています。

確かな知識と実社会への応用力を大事に

全学科、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」に認定されています。大事にしているのは、確かな知識・技術・専門性を身につけること、在学中から、社会へ応用する機会を豊富に用意していることです。



各学科の特色ある授業を紹介

情報科学科

授業：情報科学実験



情報通信システムの核となるハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、データベースの4大要素を学ぶ実験科目。自らの手を動かす実験形態の授業で、知識だけでなく、体身についたスキルを確実に獲得することができます。

ほかに「創造的プログラミング」「知能科学」など

行動情報学科

授業：データアナリティクスII



データサイエンティストへの第一歩として、実際にデータを集めて、処理・分析していきます。これからの社会を生き抜くために必要不可欠な社会調査、統計、テキストマイニング、機械学習技術などを実践的に身につけていきます。

ほかに「ビジネスプランニング」「AIシステム」など

情報社会学科

授業：メディア・コミュニケーション演習



さまざまなメディア現象に目を向け、調査・分析・検証するプロセスを実践的に学ぶ授業です。メディアテキストを分析するのに必要な理論と方法論を学び、実際にテレビCMや映像作品などを分析する演習を行います。

ほかに「情報と法」「社会調査法」など

大学院の情報学専攻に「領域情報学コース」が2025年度からスタート

『令和5年度大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）』に採択され、大学院の定員を増やし、基盤情報学コース（定員50名）に加え、新たに領域情報学コース（定員35名）を設置しました。

例えばDXを進める自治体、企業について情報システムだけでなく、情報システム以外の仕事はどういう仕組みで行われているか、応用分野の一定の知識を得た上で、情報学を考える、これが領域情報学です。こうした教育を行うために、社会の第一線で活躍する方々が特任教員となり、授業の一部を担当したり、研究のアドバイスをしています。学部生にとっても、実社会での活用を直接聞ける良い環境となっています。

修士課程 総合科学技術研究科 情報学専攻

情報学の総合的視野と産業界の
先進的ニーズに対応する学修

情報学を軸足とした
幅広い応用分野の学修

基盤情報学コース

- 最先端デジタル分野の研究者が全国的にも高いレベルで研究教育を指導
- 地域企業との共同研究を通じた企業ニーズに合致した研究指導と人材育成
- 自治体や地域企業等と連携したインターンシップやPBLを実施

領域情報学コース

- DX人材の育成を目指す戦略の一環として複数の実務家教員による企業での実践例を取り入れた領域情報学の講義・演習
- 他領域との融合を目指した情報学の応用と企業インターンシップ等を通じた実践的な学修の促進

自ら設定した課題の解決と活動発表 高校生探究・情報コンテスト

高校の「総合的な探究の時間」における探究活動の「まとめ・表現」の場として活用できるよう、2023年度から同コンテストを主催しています。



2024年度開催時の高校生によるポスター発表

- 高校生が探究活動・課題研究の成果をポスター発表
- 本学の教員、大学生、大学院生、出場高校の先生が評価
- 同時開催中のテクノフェスタに来た一般の方などが評価

多様な観点から意見が得られ、他の高校生の問題意識も知ることができ、高校生にとって自ら考えるきっかけになっています。

「高校生探究・情報コンテスト」をはじめとした日本国内の主要なコンテスト等での実績を評価する革新的な総合型選抜「アチーバー人材入試」を令和9年度入試から実施します。



くわしくはこちら

静岡大学情報学部30周年 記念事業募金へのご協力 のお願い

情報学部では「情報学の未来を切り拓く！」をテーマに、創設30周年の記念事業を企画しています。多くの卒業生、地域の皆さま、関係企業のご支援のもと発展してきた30年の歩みを記すとともに、情報学の未来を担う学生たちの標（しるべ）とし、進展著しい情報学領域をリードする先進的な学習・実践の拠点となるべく、皆さまからの寄付を募ります。先端教育・研究環境の充実、就職・進学等の支援、Learning Commonsの整備などに役立てますので、ぜひ、この機会にお力添えをいただければ幸いです。よろしく申し上げます。

静岡大学未来創成基金ウェブサイト
<https://kikin.adb.shizuoka.ac.jp>



自主的な活動で 異分野チームを 結成！

2025年4月、静岡大学は研究戦略機構を設置し、6月には研究イノベーション創出会議を設置して、基礎研究から応用研究・社会実装まで全学的に研究マネジメントを行う体制を整備しています。そこで注目したいのが、静大が2019年から独自に取り組んでいる「プロジェクト研究所」です。分野や組織が異なる研究者たちがチームを組んで自主的に活動するもので、現在36研究所あり、大学として支援を行い推進しています。

プロジェクト研究所

現在 **36** 研究所が活動中！

2025年10月1日現在

グリーン社会と海洋研究の推進

- － キノコ科学研究所
- － セルロース循環経済研究所
- － 昆虫科学研究所
- － ティーサイエンス研究所
- － 静岡海洋環境研究所
- － 農知創造研究所
- － 静岡みかん研究所

グリーン社会と スマートコミュニティの実現

- － イノベーション・スタンダード研究所
- － カーボンリサイクル技術研究所
- － 機能分子材料研究所
- － デジタルソーシャルトラスト研究所
- － 浜松次世代パワーメカトロニクス研究所
- － 未来の社会インフラデザイン研究所

AI・データサイエンス研究の推進

- － ケア情報学研究所
- － 科学技術イノベーション教育研究所
- － 現代解析学研究所
- － 山岳先端情報システム研究所
- － 数理・データサイエンス教育研究所
- － STEAM教育研究所
- － センサー情報処理研究所
- － データ駆動型ソリューション研究所
- － 土木情報学研究所
- － ハイブリッドAIシステム研究所

ソーシャルウェルネスの実現

- － エコフェミニズム研究所
- － 聞き書き・語りの森研究所
- － 子どもレジリエンス研究所
- － コンピテンス基盤型教育研究所
- － ジェンダー研究所
- － ジオ福連携研究所
- － 人口動態と就労環境研究所
- － 超高齢社会課題研究所
- － デジタル社会における法的対応研究所
- － 登呂農耕文化研究所
- － 発酵とサステナブルな地域社会研究所
- － ピアノとウェルビーイング研究所
- － みちかな木の家具・モノコトづくり研究所

個性あるプロジェクト研究所の活動
を紹介する新連載がスタート！
13ページをご覧ください

事例紹介

発酵とサステナブルな地域社会研究所 「異分野で連携して成果を広げています」

お酒や発酵食品という身近な研究対象について、総合大学だからこそ多分野の研究者の力を結集することができました。研究者の確かな知見に対する期待が、産学官連携につながりました。

発酵食品は
地域文化の形成に
つながっている

静岡といえば
…家康公！

所長 人文社会科学部
大原志麻教授
(専門分野: 比較文化)

酵母の専門家と
家康公ゆかりの地で酵母を採取

井川大日峠の「家康公茶壺屋敷」

理学部 丑丸敬史教授 農学部 木村洋子教授

クラフトビールを観光資源に

家康と静岡のつながりを
PRし、地域ブランドに
つなげたい

自治体 商工会議所

副所長 人文社会科学部
横濱竜也教授

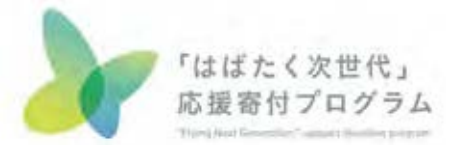
家康公ビール完成！
市内の醸造所が協力して商品化

第3弾まで
すぐに完売！
新たな
地域ブランドに

2025年4月からは、同じくプロジェクト研究所の一つである「登呂農耕文化研究所」と登呂遺跡で「古代稲作」栽培の赤米によるお酒造りに挑戦しています。

「プロジェクト研究所長」を 育成するプログラムがあります

第一三共株式会社「はばたく次世代」応援寄付プログラムに採択され、「次世代研究者のためのプロジェクト研究所長育成プログラム」を2023年度から開始しています。異分野交流会、研究費配分、シンポジウム開催、事務・URAのサポートなどにより、独創的なアイデアを持った若手研究者を発掘する仕組みを整えています。



所長になった若手研究者に聞きました

2024年度の同プログラムで選出され、
2025年にプロジェクト研究所を設立した
「ハイブリッドAIシステム研究所」所長の
工学部 村上 裕哉 講師

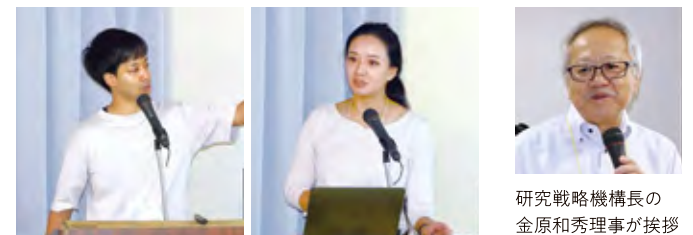


理論モデルと機械学習に両立したハイブリッド型AIを化学工学の世界へ取り入れ、高精度+データ非依存な解析手法の実用化を目指しています。研究所設立が、異分野間交流や自身の研究分野の拡張、更には学内外へのPRにも繋がり、当プログラムの取り組みに心から感謝しています。

若手研究者の異分野交流会を開催

総合大学ならではの特徴を生かし、分野の異なる学内研究者
同士の交流機会を創出し、ネットワーク構築を推進しています。

23人がショートトークで連携を呼びかけ



研究戦略機構長の
金原和秀理事が挨拶

ポスター発表

研究紹介ショートトークで気になったポスターに付箋でコメントを記入。ポスター発表時に、先輩研究者など多くの参加者と直接話し合い、新たな連携につながるきっかけとなっています。



コメント・質問のフセンがいっぱい

研究最前線

研究フェロー

第6期 12名

個人研究や学際・未踏領域研究を組織的に推進するための中核的な人材で、本学での研究等の分野で先駆的・先導的役割を担う。

- 白井千晶(人文社会科学部)
- 王 権(農学部)
- 藤井基貴(教育学部)
- 平井浩文(グローバル共創科学部)
- 青木 徹(電子工学研究所)
- 狩野芳伸(情報学部)
- 小野行徳(電子工学研究所)
- 香川景一郎(電子工学研究所)
- 菊池将一(工学部)
- 越水正典(電子工学研究所)
- 新谷政己(工学部)
- 中野貴之(工学部)

若手重点研究者

第6期 19名

研究実績、学術業績に優れ、本学の次代を担う研究者として目標が高く、独創性を持ち、新しい流れを起こす、意識の高い若手教員。

- 原瑠璃彦(人文社会科学部)
- 内山秀樹(教育学部)
- 川原崎知洋(教育学部)
- 佐藤正志(教育学部)
- 遠山紗矢香(情報学部)
- 望月美希(情報学部)
- 山本泰生(情報学部)
- 岡村和樹(理学部)
- 久保篤史(理学部)
- ルグラン ジュリアン(理学部)
- 大多哲史(工学部)
- 田代陽介(工学部)
- 水嶋祐基(工学部)
- 渡部 綾(工学部)
- 一家崇志(農学部)
- 齋藤貴子(農学部)
- 菌部 礼(農学部)
- 平嶋裕輔(グローバル共創科学部)
- 山本隆太(地域創造教育センター)

電子工学研究所
工学部 電気電子工学科 教授

香川 景一郎
KAGAWA Keiichiro

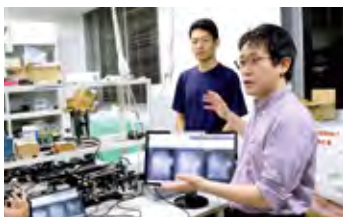


研究室ウェブサイト



イメージセンサと応用技術を同時に発展させる

カメラは人が見て楽しむために写真を撮る装置から、実世界を数値として測るための装置に変化してきています。イメージセンサは光を電気信号に変換するカメラの最も重要な部品です。私は「画素」と呼ばれる光信号を捉える最小単位の中で、高速に信号を重ね合わせる「コンピューショナルフォトグラフィ」に基づくイメージセンサと、それを深層学習と呼ばれる人工知能と組み合わせた新しい距離計測カメラを開発しています。これは周囲の様子を3次元の形状として捉えるため、車やドローンの自動運転に利用されます。従来技術で問題だった距離の誤差を大幅に改善できることが特徴です。



イメージセンサを発展させるためには、その応用を知り、電子技術だけでなく幅広い知識に基づく融合的な思考が重要です。研究を通じて、自分の成長を感じて下さい！

研究PRESS RELEASE

研究成果を発表して報道されたものをご紹介します
2025年2月～7月

竹内 純(農学部)「高温ストレス下で植物の発芽を調節できるタンパク質の活性化機構を解明」
松本正茂(理学部)「広帯域のテラヘルツ光で光のダイオード効果を観測」
後藤寛貴(理学部)「ツノゼミの多様な「ツノ」における種間相同点の整理」
花岡 創(農学部)「雄性不稔(無花粉)スギ「春風(はるな)」を開発 一花粉症対策品種の充実に貢献」
平内健一(理学部)「高圧流体が引き起こすプレート境界断層の破壊 ースロー地震発生メカニズム解明への新たな手がかりー」
北村晃寿(理学部/防災総合センター)「熱海市伊豆山地区土砂災害の盛土と土石流堆積物に含まれる軟質泥岩礫」
長尾 遼(農学部)「珪藻フコキサンチン・クロロフィル結合タンパク質の凝集体の励起エネルギー消光機構の解明」他2件
塩田真吾(教育学部)「静岡大学がヤマハと共同開発した「人生を楽しむための余暇図鑑」を無償提供開始」他5件
齋藤貴子(農学部)「卵子は精子を食べて受精を成立させる ー食作用に類似する受精様式を発見ー」
河合信之輔(理学部)「次世代機能性材料「超分子ゲル」の形成メカニズムを分子レベルで解明」
守谷 誠(理学部/グリーン科学技術研究所)「燃料電池触媒の非白金化へ前進 ー高耐久性コバルト触媒の開発に成功ー」

静岡大学は、「研究フェロー制度」および「若手重点研究者制度」を導入し、競争力のある研究の推進や世界で活躍する人材の育成に取り組んでいます。本号では、第6期(2025～2027年度)に選定された教員から3名をご紹介します。

電子工学研究所
工学部 電子物質科学科 教授

越水 正典
KOSHIMIZU Masanori



研究室ウェブサイト



放射線を可視化する次世代材料で安全かつ高度な利用を可能に

私は光を用いて放射線を計測する材料を開発しています。放射線は高いエネルギーを持った粒子や光の粒(光子)です。骨折の有無などをレントゲン撮影で判断できるのは、人体を透過したX線の強度分布を放射線検出素子を用いて画像化しているからです。他に空港の手荷物検査などの内部可視化や素粒子研究に活用されています。我々は、有機および無機化合物やそれらのハイブリッドを駆使し、ナノ材料の利用によって放射線に対する電子の応答を制御し、高い性能を実現して次世代の医療診断装置や素粒子実験での利用を目指しています。



放射線計測の主役は放射線のエネルギーを受け取った電子。高精度な放射線計測に都合の良い「旅路」を電子に用意するために、多様な化合物を用いた材料開発を進めています。

農学部 生物資源学科
山岳流域研究院 教授

王 権
WANG Quan



研究室ウェブサイト



生態系プロセスモデルとリモートセンシング技術を融合

リモートセンシング技術を活用し、遠く離れた場所から物体の形や性質を観察しながら、生態系の仕組みや変化に関する研究をしています。光合成能力などの生理パラメータを非破壊的に推定することで、植物の健康状態やストレス応答の動きを即時に観測でき、生態系の持続可能性評価に役立ちます。さらにカメラや他のセンサを用いた定量的解析で森林構造の動態を把握します。また、地上観測と衛星リモートセンシングデータを統合した解析では詳細な環境変化を追跡できます。生態系プロセスモデルとリモートセンシングデータの融合で気候変化や人為活動が生態系に及ぼす影響も予測できます。



多様な情報を組み合わせることで生態系の動的な変化を追跡することが可能となり、スマート農業や林業、生態修復、カーボンニュートラルなどの実際の社会的ニーズに役立ちます。

富田 誠(理学部)「【世界初!】エックス(X)線殺菌の基本原理解について従来の定説を覆す効果を発見!」
平井浩文(グローバル共創科学部)「高活性リグニン分解菌 *Phanerochaete sordida* YK-624株の新規シトクロムP450酵素スクリーニング系を構築」
斉藤俊貴(グローバル共創科学部)「嵐を呼ぶ太古の巨大棒渦巻銀河」
田上陽介(農学部)「昆虫の生殖を利己的に操作する共生細菌に対して宿主が反撃!」他1件
川田善正・居波渉・小野篤史(電子工学研究所)「シリコンで深紫外光を捉える新技術を開発」
ルグラン ジュリアン(理学部)「むかわ町初の新世代鳥類化石の発見 ー絶滅鳥類プロトプテルム科化石の報告ー」
伊藤 舜(理学部)「伊豆諸島全体で鳥類の多様性が過去50年の間に低下した」
関 朋宏(理学部)「光を消すと結晶がジャンプする新現象を発見 ー光と熱、2つの刺激の相乗効果で実現ー」
間瀬暢之(グリーン科学技術研究所/工学部)「CO₂と可視光でβ-アミノ酸を合成する新反応を開発」
吉田信行(工学部)「超低栄養性細菌を用いたバイオプラスチックの生産に成功」





きくち はやと 菊地 勇翔 さん

教育学部
(2025年3月卒)
浜松市立北浜北小学校 (教諭) 勤務

2002年生まれ、静岡県立浜松北高等学校卒
趣味はバスケット観戦
好きな言葉は「ありがとう、やらずに後悔するより
やって後悔する方が良い」

幼いころから目指していた教員

幼いころから浜松市で教員となることを目指しており、地元である浜松市に近く、教員免許を取得できる静岡大学を選びました。また、静岡大学は教育学部以外にも学部があるので、様々な考え方もった人に会えると考えたことも選んだ理由の一つです。

数学教育ゼミで熱心に 取り組んだディスカッション

数学教育専修に所属し、自分自身の数学力を伸ばすとともに、算数・数学科のカリキュラムや指導法についての理解を深めました。4年次には数学教育ゼミに所属し、教員を目指す仲間と、子どもたちの資質・能力を伸ばす算数・数学科の授業について議論しました。それぞれがもっている考え方や授業に対する思いを伝え合い、よりよい授業をつくらうと議論した経験は、教員となった今でも同僚の先生方と授業を考えると生きています。

アルバイトとボランティアで 教育現場を経験

アルバイトでは3年間、中学生の家庭教師をしていました。一人の生徒を見続けて指導した経験は、個に応じた指導を考えるときに役立っています。また、3年次には学校支援ボランティアとして静岡市内の中学校で週1回授業の補助をしていました。学校で授業の様子や支援の仕方を学ぶことができ、貴重な経験となりました。



ボランティア活動で様々な専攻の友人ができました

子どもたちの小さな成長の一つ一つが とても嬉しい

今は3年生の学級担任をし、子どもたちの色々な考えに触れています。授業中に「分かった!」「そういうことか!」という声が聞こえたときなど、成長が見られたときにやりがいを感じます。子どもたちが他者と協働しながら主体的に学習に取り組めるようにしていくことで、自分のよさに気づき、そのよさを学校生活や社会の中で生かせる人になってほしいと願っています。



算数「時とく」と時間の授業風景

自由な時間を全力で楽しみ、 多くの人とつながりをつくらう!

大学生は興味をもったことに挑戦できる機会がたくさんあります。自由に使える時間を全力で楽しんでください。また、静岡大学には色々な学部があり、様々な専門性や考え方をもった人たちがたくさんいます。多くの人とつながりをつくることで尊敬できる人に会ったり、刺激をもらったり、自分の考え方を広げたりすることができると思います。これからも、静岡大学から子どもたちの成長を願う情熱ある教員がたくさん誕生することを願っています!



尊敬する先輩方との
おつかれさま会



菊地さんが学んだ教育学部について、くわしくはこちらから →



ふかざわ みい 深沢 未衣 さん

理学部
総合科学技術研究科 理学専攻
(2024年3月卒)
東邦ガス株式会社 (企画スタッフ) 勤務

1999年生まれ、静岡県立藤枝東高等学校卒
趣味は旅行、フェス参戦
好きな言葉は「人生は一度きり」

学部・キャンパスの垣根を越えた 友人との繋がり

地元であることに加え、理系や文系どちらかに偏らず様々な学部があり、さらにサークル・部活動で色々な人と関わることができると思い、静岡大学を選びました。実際に静岡・浜松の両キャンパスで活動する探検部に入部したことで、理学部のある静岡キャンパスだけでなく浜松キャンパスの学部の人ともつながりができ、進路の話などを聞くことで視野が広がりました。

原因は何か、失敗しても 次に活かせるように

大学院では金属錯体の研究に打ち込みました。思うような結果を得られないことも度々ありましたが、その度に失敗した原因が何かを追求し、次の実験へ活かしていました。現在は研究とは全くかけ離れた仕事ですが、研究活動で定着した、「課題解決に向けてPDCAを回すこと」を意識し業務に取り組んでいます。

日常では味わえない経験を得た 探検部での活動

所属した探検部では、登山やラフティング、洞窟探検等、幅広いアウトドア活動を行いました。静岡・浜松間の約80kmを走破したり、友人と二人で静岡から博多まで自転車旅を行ったりした経験は今でも私の大きな自信となっています。仕事を進める中でも「行動を起こしていればいつか必ずゴールできる」と信じてポジティブに取り組むことができます。



静岡から博多までの自転車旅
九州上陸!

資格を取得し、業務に活かしています

現在は、大規模地震が発生した際に、ガスによる二次災害が最小限となるよう、防災施策を立案する仕事を行っています。災害時は情報が錯綜することが考えられるため、より効率的に情報を集約する動きが進んでいます。そのようなDX化に活かせるように、昨年ITに関する資格を取得しました。防災施策への課題を解決するたびに、「未来の誰かの生活を守ることができた」と思うとやりがいにつながります。



気兼ねなく質問できる雰囲気の良い職場です

人とのつながり・新しい挑戦が 大きな財産に!

学業に加えて、探検部や研究室を通じた人とのつながりや新たなことに挑戦した経験が、今でも私の財産です。大学生活は自由な時間が多く、新しいことに挑戦する絶好の機会です。少しでも興味があれば「とりあえずやってみよう」の精神で自分の世界を広げてみてください! 勢いだけで始めても、意外と何とかなります!



(左)富士山頂、(右)洞窟探検にて。皆さんいろいろなことに挑戦してみてください



深沢さんが学んだ理学部、総合科学技術研究科理学専攻について、くわしくはこちらから (左) 理学部、(右) 総合科学技術研究科理学専攻 →

ヒコーキ部 鳥人間コンテスト出場！



静岡大学ヒコーキ部が、2019年以来6年ぶりの「鳥人間コンテスト」に出場し「1km以上の飛行」を目標に琵琶湖での飛行に挑みました。他団体は「高翼機（主翼が上側）」が主流の中、ヒコーキ部は「低翼機（主翼が下側）」にこだわって設計。その一番の理由は、水面ギリギリを飛ぶことで空気の流れが変化して揚力が増し、空気抵抗が減る「地面効果」を最大限に活かすことです。そのため設計者の安藤裕飛さんと飯田恵立さん（共に工学部3年）は、翼根での翼弦長を大きくして構造の剛性を高めるなど、地面効果をより最大化するべく設計に大きな変更を加えました。

モチーフとなったのは、安藤さんが幼少期に惚れ込んだ自衛隊の戦闘機「F-2」。飯田さんは、安藤さんの憧れの機体「F-2」にカワセミの羽のような美しい色「翠（みどり）」を掛け合わせ「F-2翠（ふじみどり）」と命名しました。



設計者の安藤さん

パイロットの桂風澄さん（工学部3年）は、ロードバイクやグライダーを使ったトレーニングや食事制限など、長距離を飛行し続けるための体づくりでコンテストに備えました。当日は「共に頑張った同期、OB、後輩たちとの集大成をしっかりと飛ばしたい」という思いで飛行に挑んだ桂さん。目標は叶わなかったものの、自作の飛行機で琵琶湖の空を飛んだという貴重な経験は次代の後輩たちに受け継がれます。



設計者で「F-2翠」名付け親の飯田さん



パイロットの桂さん



X



WEB



見つけた！輝く静大生

部活動、研究、地域との連携...それぞれの

若者の思いを発信！

小長谷笙さん 都内の選挙イベントに登壇



壇上で意見を述べる小長谷さん

小長谷笙さん（人文社会科学部3年/政治学ゼミ）が、若者の投票率向上を図ろうと都内で開かれた政治とSNSの関係に関するシンポジウムに登壇しました。学生の現状やメディア・SNSへの見方、学生が社会に対して思っていることを真摯に発信したいという思いで参加。「若者をはじめ、多くの人に政治への関心を持ってもらうため、メディア・SNS双方の特性を生かした情報の発信と入手が重要」と述べました。新聞で時事問題を学んだのをきっかけに小学6年生の頃から政治に関心を持っていた小長谷さん。若者の投票率を向上させ、全ての世代に有益な社会・民主主義の基盤づくりに貢献したいとの思いから、本学入学時より静岡県選挙管理委員会の選挙啓発ボランティアに参加していました。

「政治はとても身近な存在で私たちの投票のみによって変化する」ことを多くの人に知ってもらい、共に豊かな活力ある日本を創っていきたくと考えています。

所属する政治学ゼミ（井柳美紀教授）では、選挙のたびに本学学生にアンケートを実施。政策や制度の改善に向けた提言にまとめ、学内図書館での展示や報道対応によって社会に発信しています。また、静岡市選挙管理委員会との連携で昨年行った静岡市の投票率に関する選挙啓発動画などの作成が、全国の範となると評価され、公益財団法人明るい選挙推進協会の「優秀活動賞」を受賞しました。



政治学ゼミによる「私たちの選挙2025」の展示



表彰を受けるゼミの学生

場所で挑戦を続ける静大生をご紹介します。

岡愛香梨さん 「静岡県をアボカドの産地に！」



静岡県が2025年度に開始した「アボカド産地化プロジェクト」のキックオフフォーラムに、本学総合科学技術研究科農学専攻を修了し、現在、岐阜大学大学院連合農学研究科所属の岡愛香梨さんが登壇。定員いっぱいの120名が集まる中、2024年の1年間、文部科学省「トビタテ留学JAPAN」制度で留学したメキシコで学んだアボカド栽培の成果について発表しました。

静岡県では、近年急傾斜地で茶や柑橘等の耕作放棄が増えており、その解消を目指して熱帯・亜熱帯果樹栽培の研究に取り組んできた岡さん。アボカドの原産国メキシコで、遺伝資源について学ぼうと留学を決めました。「毎日、驚きと発見の連続。色・形・香りも様々なアボカド品種の多様性、日本では考えられないような大規模農園での栽培管理に圧倒されました」。一方、急傾斜地にも広がるアボカド畑を見て、「静岡県での栽培にもびったりだと感じました」。

岡さんは現在、河津町で地域おこし協力隊としても活動中。アボカド産地化を目指して農家・企業等と連携し、町全体で取り組んでいます！



メキシコ留学時の岡さん（右から2人目）

ラフティングチームNOVA 世界選手権に出場！



（左より）
佐々木海翔さん、
大木達則さん
（共に工学部3年）、
瀧ヶ崎夏緒梨さん、
鈴木そなさん
（共に情報学部3年）

静岡大学探検部のラフティングチーム「NOVA」は、スロベニアで開催された2025年WRF世界選手権ジュニア&U23カテゴリー大会に、男女ミックス部門（U23 Mixed）の日本代表として出場しました。レースはダウンリバー（長距離）、スラローム、RX（1対1）の3種目で競われ、NOVAはRXで「優勝」、3種目総合で「3位入賞」を勝ち取りました！初めての世界大会

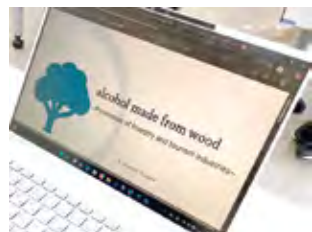
國吉佑輔さん 起業家を 目指しシリコンバレーへ



國吉佑輔さん（グローバル共創科学部2年）が日本貿易振興機構（JETRO）のJ-StarX起業家等の海外派遣プログラム「スタンフォードコース（学生）」に採択されました。米国・シリコンバレーを訪問して起業家精神やデザイン思考などを学び、自らが立てたビジネス

プランをブラッシュアップしていきます。

國吉さんのプランは「alcohol made from wood」（木からお酒を作る）。独自性を持った静岡産ブランド品として売り出し、まず静岡県の林業と観光業を振興させる六次産業化を目指すというものです。「もともと海外での活動や起業に興味があり、そのきっかけにしたい」と本プログラムに学部授業「コラボラティブ・ワークス」で支援を受けて応募。二次審査を兼ねた国内プログラムでの積極的な参加姿勢が評価され、全国から派遣される20人の一人として選ばれました。現地で行うプレゼンや講義、演習などさまざまなプログラムの使用言語はすべて英語。國吉さんは「現地の起業家などと接する刺激的な機会を活かし、人として成長したい」と意気込みます。今後政治に関わりたい思いもあり、大学院に進学して学びを深めることも考えているとのこと。本プログラムへの参加が今後の成長につながることを期待しています！



という大舞台で、はるかに体格の大きい海外選手と張り合い総合3位を獲得できたことは、メンバーにとって大きな自信につながりました。大会に向けて、学業やアルバイトとも両立させながら、寒さの厳しい冬でも日々練習に励んできたメンバーたち。授業開始前の朝6時から練習することもあり、世界大会の選考会前には徳島県の吉野川で自炊生活をしながら2週間の合宿を行うなど、世界の舞台で戦うことを目標に厳しい練習を重ねてきました。「多くの人の支援でここまで来れた」と感謝の気持ちでいっぱいのメンバーたち。今後はこの貴重な経験を後輩たちに伝えていきます。



Instagram



WEB

工学部化学バイオ工学科 鳴海研究室

私たちの研究室では、有機合成化学・ペプチド化学・ケミカルバイオロジーを融合した創薬研究を通じて、疾患に関わる生命現象を理解・制御する“イケてる”分子の創出を目指しています。



鳴海 哲夫 教授

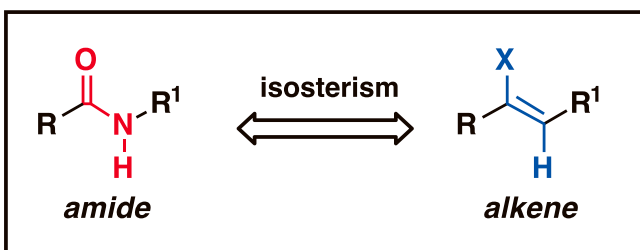
祝10周年!



研究室設立10周年を記念した祝賀会の様子

“似ているけど違う”有機分子を作り、生命現象を科学する
等価性に着目した機能性分子の創製研究をしています

ペプチド結合をアルケン骨格へ置換し、
ペプチド医薬品の機能を向上



ペプチドは、医薬品としての応用が期待される分子です。しかし、ペプチドを構成するペプチド結合は、生体内では酵素によって容易に加水分解され、薬効が失われやすいという課題があります。そこで私たちは、この加水分解されやすいペプチド結合を、安定な炭素-炭素二重結合(アルケン骨格)に置換した「ペプチドと似て非なる分子」の設計・合成・応用に関する研究を進めています。これにより、元のペプチドが持つ機能を向上させたり、新たな機能を付与したりすることで、ペプチド創薬の新たな可能性を切り拓くことを目指しています。

化学合成した人工タンパク質を用いて
生命現象を解明

私たちの身体には無数のタンパク質が存在し、それらが適切に機能することで健康が保たれています。しかし、個々のタンパク質の機能については、いまだ十分に解明されていない点も多く残されています。私たちは、関心のあるタンパク質を化学的に合成・修飾することで、性質や機能との関係を詳しく調べています。こうした研究を通して、生命現象の仕組みをより深く理解することを目指しています。



研究室の1日



朝 9:00ごろ～

朝は先生とのディスカッションから1日が始まります。前日の実験結果を振り返りながら考察を深めたり、新しい実験計画について相談したりと、活発なディスカッションが行われます。研究をより発展させる上で非常に有意義な時間となっています。



昼 12:00以降

午後は、それぞれの研究テーマに取り組みながら実験を進める時間です。合成、精製、分析など、手を動かしながらじっくりと研究と向き合います。また、定期的に研究室内でセミナーを開催しており、1ヶ月間の研究成果や自分の研究に関する文献を紹介しています。小さな気づきや他の人の視点が、新たな発見につながることもあります。



夕方 ～19:00ごろ

夕方には、その日に得られたデータや気づいた点を学生同士で共有し、今後の方針について話し合います。うまくいったことも、うまくいかなかったことも、オープンに話せる環境の中で、次の実験に向けて前向きな議論が交わされます。

雰囲気について

研究には真剣に取り組みながらも、相談しやすく、互いに学び合える雰囲気を大切にしています。研究だけでなく、進路や人生相談、日常のちょっとした雑談まで、気軽に話せるアットホームさも私たちの研究の魅力です。

学会について

研究室では、国内外の学会に積極的に参加しています。研究成果をポスターや口頭で発表し、他大学や企業の研究者と意見を交わすことで、たくさんの刺激を受けながら自分の研究を深めていきます。発表を通して得られる経験はとても貴重です。これまでに学生による発表賞の受賞も多数あります。なかには、海外の学会にて英語で発表し、ポスター賞を受賞した学生もいます。



研究室旅行



毎年1回、OB・OGを交えて研究室旅行に行きます。普段は研究に真剣に向き合っているメンバーも、この日だけは研究の手をいったん休め、日常とは違う特別な時間を過ごします。学年や立場に関係なく交流できる場でもあり、先輩たちの昔話を耳を傾けたり、研究以外の一面を知れたり、普段の研究室とはまた違った距離感でつながることができます。ときには、卒業して数年経った先輩が近況を報告してくれることもあり、将来の自分を想像する良いきっかけにもなります。





大学での研究を活かし、現在はシステム開発を担当しています

Vol.9 新しい環境に挑戦し 世界で活躍したい

ヴー ティゴック アン(ベトナム出身)
情報学部行動情報学科(2024年卒業)
2025年4月より矢崎総業株式会社 勤務

得意な数学を活かせる学問を学びたいと思い、充実したシラバスと留学生への手厚い支援がある静岡大学に進学しました。
在学中は、画像生成モデルの検索アルゴリズムについて研究しました。具体的には、AIによる画像生成モデルを対象とした検索手法です。一般的に画像に写っている被写体に注目して検索を行いますが、私の研究では画像の「画風」のみに着目して検索を行う点に



母国のお気に入りの景色
Ninh Binh県にある
Thung Nham山の夜景



アジアブリッジプログラム(ABP)は、静岡県とアジア諸国の架け橋として活躍する人材を育成するため、企業や自治体と連携して、静岡大学で学ぶ留学生を応援しています。ご支援いただいている企業の皆様のおかげで、開講10周年を迎えることができました。



ABPについて



ABP10周年記念
特設サイト

プロジェクト vol.1 研究所レポート

プロジェクト研究所は、学内研究者の連携や産学官連携を促進し、自主的な研究活動を支援する静岡大学独自の制度です。未来をリードする新たな研究が生まれています！3ページからの特集もあわせてご覧ください。



デジタル社会における法的対応研究所

個人データの利活用により新たな産業が生まれ、社会の利便性が向上するなか、行政の担う役割の変化への対応が喫緊の課題となっています。本研究所では、デジタル化の推進と共に生じた諸変化に、法制度がどのように対処していくかについて、産・学・官が連携して研究を展開しています。現在は、静岡県との連携を図りつつ、韓国・アジア大学、台湾大学、AI・IoTを活用した介護事業を行う民間企業と共同研究を行っています。



研究所長
グローバル共創科学部
朱 嘩 教授



研究所WEBサイト



・AIと法
・法整備の検討
・高齢者支援策
・民事信託
・パーソナルデータの利活用

機能分子材料研究所

エネルギーの安定供給・経済成長・排出削減の同時実現を目指すグリーン・トランスフォーメーション(GX)の推進のために、革新的な材料の開発が重要となっています。本研究所では、エネルギー、環境分野を主な対象とし、GXに資する電池・触媒・水・外部刺激応答に関連する機能分子材料の探索と機能評価に取り組んでいます。研究成果を応用研究へ発展させながら、社会実装とGX実現に貢献します。



研究所長
グリーン科学技術研究所
理学部
守谷 誠 准教授



研究所WEBサイト



・材料
・分子
・電池
・触媒
・水
・光
・圧力

Shizudai Mini News

東海大学静岡キャンパスと 包括連携協定を締結

静岡大学と東海大学静岡キャンパスは、3月に包括連携協定を締結し、締結式を東海大学海洋調査研修船「望星丸」で挙行了しました。本包括連携協定に基づき、静岡市・静岡県の地方大学・地域産業創生交付金事業「駿河湾・海洋DX先端拠点化計画」による海洋DXの推進、大学院レベルでの単位互換に向けた整備など、教育、学術研究、地域連携や人的交流に関する取り組みを連携して進めていきます。今後、国立・私立の壁を越えて連携していくことで、未来を創る教育・研究成果を幅広く地域社会へ波及させていきます。



日詰一幸学長(中央左)と内田晴久東海大学静岡キャンパス長(中央)ら

「マリンインフォマティクス 研究機構」を開所

「マリンインフォマティクス研究機構」を静岡理工科大学と共同設置し、開所式を4月に挙行了しました。本機構は、海洋に関する多様な社会課題をデータ分析により解決する「マリンインフォマティクス」研究強化のために設置され、両大学の強みを活かし、資源を有効活用した横断的な研究連携体制の構築や、駿河湾を対象にした海洋データ、シミュレーションモデルなどの基盤システムの開発推進を目的としています。今後、本機構の連携大学の東海大学を加えた3大学から募った研究テーマを20件選定し、研究を進めていく予定です。



日詰一幸学長(中央左)と木村雅和静岡理工科大学学長(中央)ら

中国・浙江大学と 大学発スタートアップに 関する覚書を締結

静岡大学・静岡県・静岡県立大学と浙江大学は、大学発スタートアップの交流・育成に関する覚書を締結しました。覚書調印のため、日詰一幸学長他7名が6月に中国・浙江省の浙江大学を訪問しました。
この協定は、これまでの学術研究、教育分野での交流を基礎として、持続的な友好交流と経済発展を担う人材や産業の育成を目的としており、産学官が連携したイノベーションの推進により地域活性化を図り、少子高齢化や環境保全など国際社会における共通課題を解決することを目指しています。
静岡県と浙江省の産学官連携を軸とした枠組みが新たに構築されたことにより、本学と浙江大学、また静岡県と浙江省との今後の交流が一層活発化することが期待されます。



(写真右より)静岡大学、浙江大学、静岡県、静岡県立大学による覚書調印式

高校生の探究学習を支援 教育学部と高校が連携

静岡大学教育学部と静岡県立静岡東高等学校、静岡市立高等学校、特定非営利活動法人しずおか共育ネットは、2023年度に教育連携協定を締結し、高大・地域連携による学びの深化と地域人材の育成に取り組んでいます。その一環として、今年度も静岡東高等学校の「総合的な探究の時間」への教育支援が始まりました。この取り組みは、専門家による支援のもとで、高等学校での学びと社会課題とをつなげ、生徒一人ひとりが社会と主体的に関わる力を養うことを目指すものです。今後も継続的な連携と発展が期待されます。



グループワークでの学び

「日本留学AWARDS」を 受賞しました

本学は「留学生にすすめる大学」として多くのご支持をいただき、『2025年日本留学AWARDS(国公立大学部門)』を受賞しました。「日本留学AWARDS」は、留学生の環境整備を目的に一般財団法人日本語教育振興協会が設立した賞で、「日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先」アンケートを毎年実施し、その結果を表彰しています(2022年は休止)。本学は2016年より過去6回受賞しており、今回で7回目の受賞となりました。全国の数ある大学の中から選んでいただけたことを光栄に思います。今後も留学生の皆さんが本学で安心して学び、充実した学生生活を送れるよう、より良い環境づくりに努めてまいります。

【本学の受賞実績】

2025年：国公立大学部門
2024年：国公立大学部門
2020年：国公立大学部門
2016～2019年：国公立大学・西日本部門



「しずおかもくまる」と 静岡大学をめぐる動画公開

静岡大学・静岡県・トヨタ車体が連携して製作した、静岡県産木材由来のセルロース素材を内外装に取り入れたコンセプトカー「しずおかもくまる」が、キャンパスキャラクターしずっぱーの案内で静岡・浜松両キャンパスを巡る動画が公開されました。西村拓也特任教授(農学部ふじのくにCNF寄附講座)、青木憲治准教授(グローバル共創科学部)、福原長寿教授(工学部)へのインタビューを通して、しずおかもくまる、セルロースナノファイバー、カーボンニュートラルについてもわかりやすく紹介しています。



動画紹介ページはこちら
静岡大学の今がわかる！
ぜひご覧ください

